



図3-2 ストランド数別ワイヤロープの断面例

同一径のロープでは、一般にストランド数が増加するほどストランド径は細くなり、ロープは柔軟性を増しますが、逆に強度は低くなり、耐摩耗性や耐形くずれ性などが劣ってきます。

4 ストランドのより方（素線の数と配置）

ストランドは、通常同一径又は異なる直径の7～数10本の素線が単層又は多層により合わされています。

素線を2層以上重ねて配置する方法には、各層の素線を同じより角でよる交差よりと、各層の素線が同一のより長さになるように1工程でよる平行よりとがあります。

同一径のストランドでは、素線数が増加するほど素線径は細くなり、ストランドは柔軟性を増しますが、逆に耐摩耗性や耐形くずれ性などが劣ってきます。

① 交差より

交差よりは、Cross Lay 又は各素線の接触状態から点接触より（Point Contact Lay）とも呼ばれ、ほぼ同径の素線を各層別により角がほぼ等しくなるようにより合わせたもので、各層により込まれる素線の長さが等しくなり、各層間の素線は点接触状態となります。

したがって、素線に作用する引張応力は均等になりますが、点接触による曲げ応力などが付加されて、耐疲労性はあまり期待できません。

なお、このより方には、 6×7 、 6×19 、 6×24 などが属しています。



図3-3 6×19のストランド